

2017年3月期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2017年4月28日



東証第1部 : 6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- I. 事業概要
- II. 2017年3月期 連結決算概要
- III. 2018年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 2018年3月期の取り組みについて
- V. 5G/IoTが切り拓く
「つながる」需要の拡大と進化
～ Mobile World Congress 2017 Report ～

I. 事業概要

T&M事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2017年3月期 実績 (連結) : 876億円

T&M 68%			PQA 22%	その他 10%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 18%	アジア、パシフィック 37%	米州 27%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

II- 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

➡ 減収・減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 10/27 業績予想
受注高	946	889	△ 57	△ 6%	875
売上高	955	876	△ 79	△ 8%	875
営業利益	59	42	△ 17	△ 28%	22
税引前利益	54	36	△ 18	△ 33%	14
当期利益	38	27	△ 11	△ 27%	10
当期包括利益	6	33	27	417%	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

II-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 10/27 業績予想
T&M	売上高	677	593	△ 84	△ 12%	585
	営業利益	47	21	△ 26	△ 55%	5
	(調整後営業利益)*	(54)	(25)	(△29)	(△54%)	-
PQA	売上高	189	196	7	4%	200
	営業利益	12	13	1	9%	14
その他 (含：内部消去)	売上高	89	87	△ 2	△ 2%	90
	営業利益	△ 0	8	8	-	3
合計	売上高	955	876	△ 79	△ 8%	875
	営業利益	59	42	△ 17	△ 28%	22
	(調整後営業利益)	(66)	(46)	(△20)	(△30%)	-

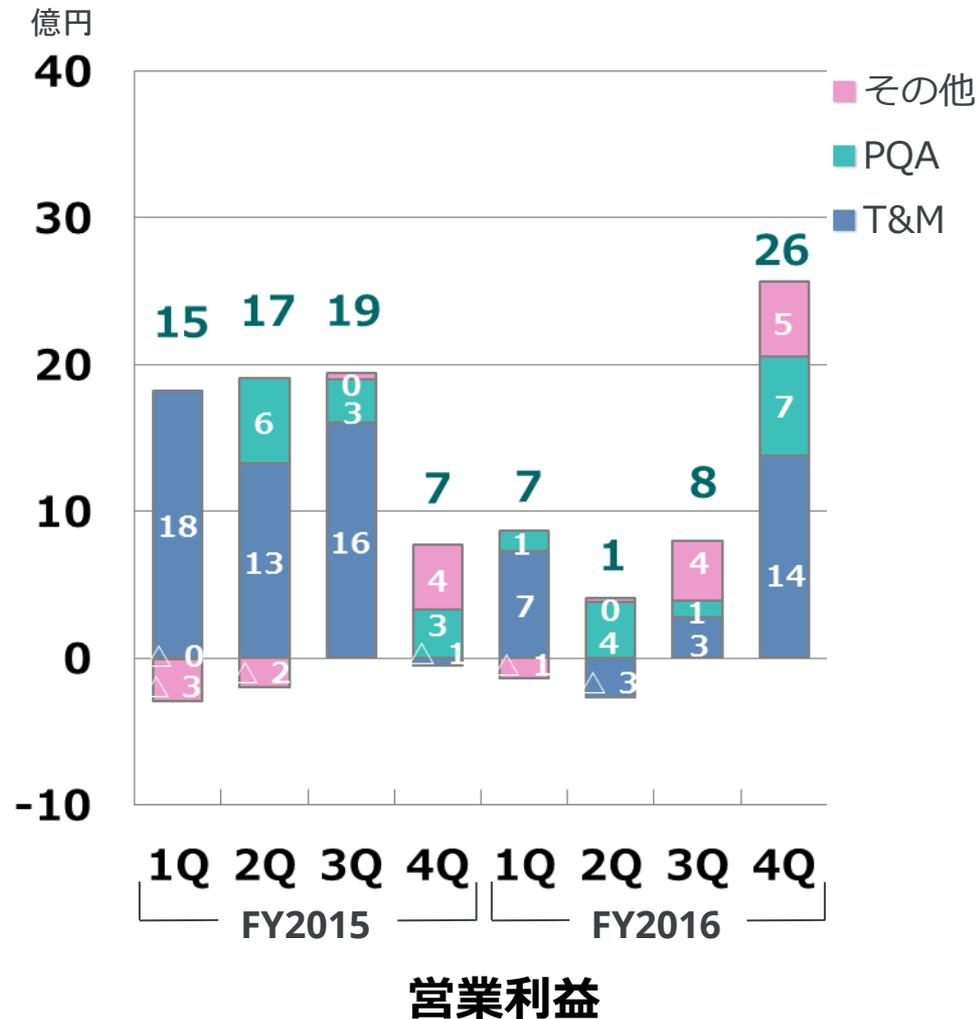
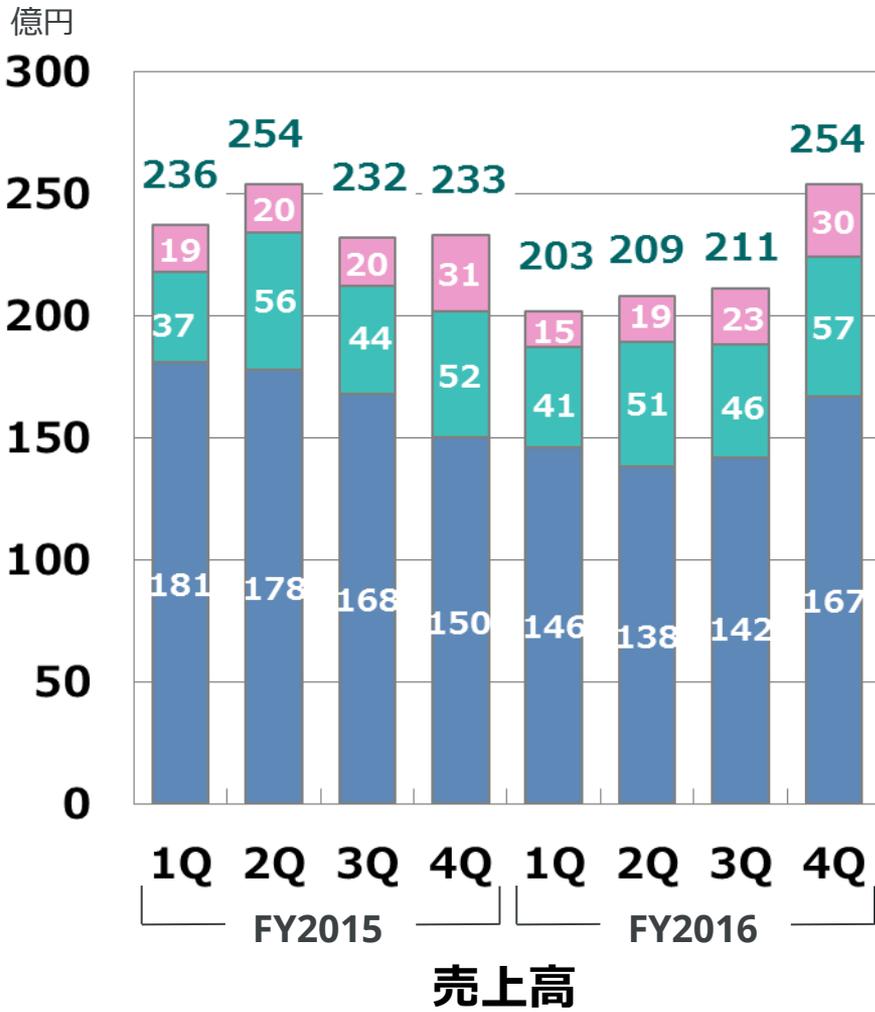
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*調整後営業利益：営業利益から一過性の性格を持つ損益項目を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標。PQA, その他は調整項目なし。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

II- 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 第4四半期の連結営業利益率10.1%、T&M営業利益率8.3%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

II- 4. 事業別営業概況

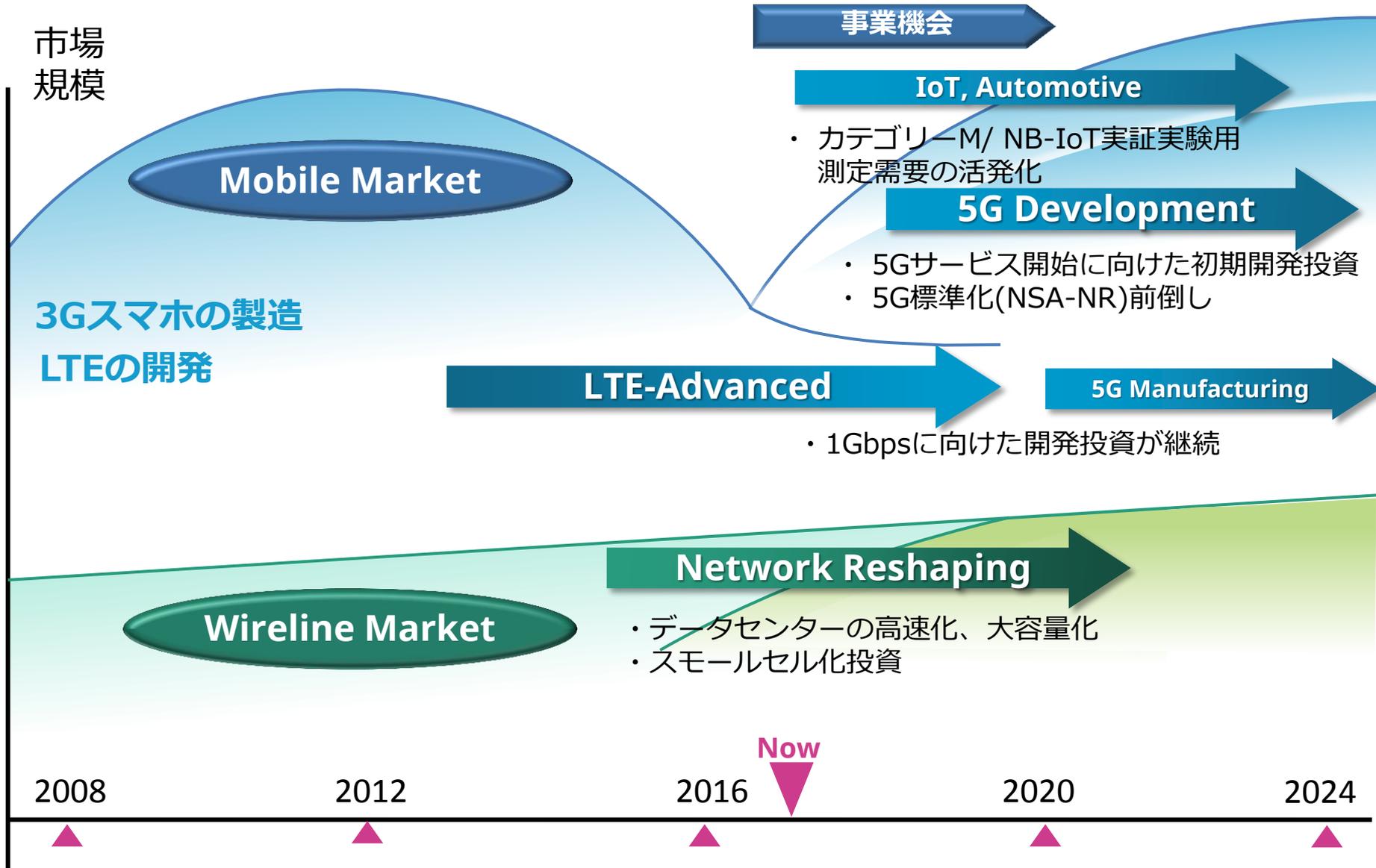
セグメント		2017年3月期（4月-3月）の状況
 T&M : スマホ関連市場は投資抑制が続く		
モバイル	LTE-Advanced	LTEと5Gの端境期で慎重な投資が続く
	5G, IoT, Connectivity	オートモティブ・5G / IoTの開発案件が具体化
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調	
アジア	LTE-Advanced開発投資は抑制気味に推移 スマホ製造市場全体の成長鈍化で競争激化	
米州	光デジタル関連への設備投資は改善傾向	
 PQA : 国内・海外ともX線の需要が堅調		

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA : Products Quality Assurance

II- 5. T&M事業 計測市場トレンドと事業機会

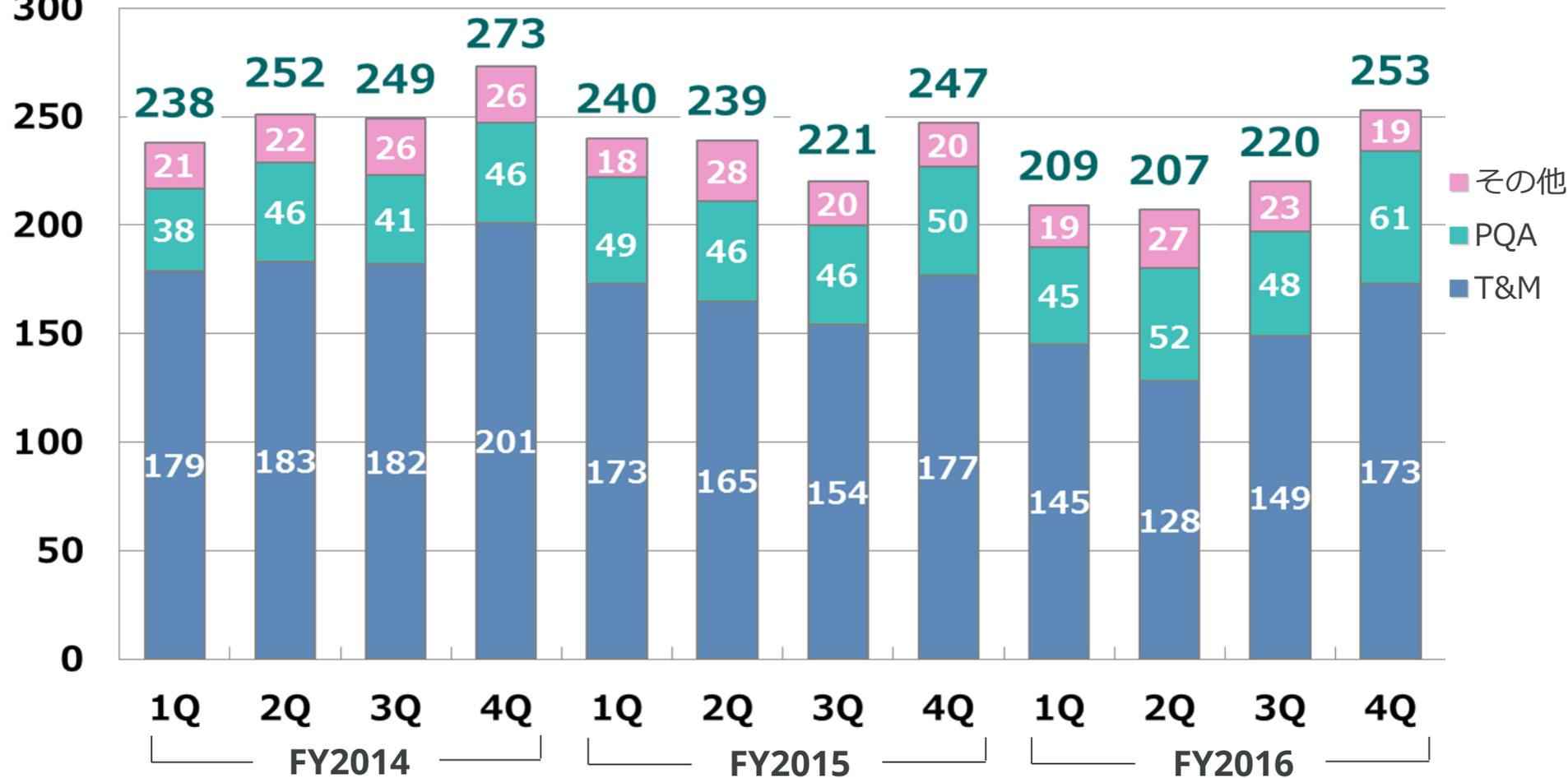


II- 6. 受注高推移

➡ T&M：全ての四半期で前年度割れが続く

➡ PQA：四半期として過去最高。通期206億円を達成

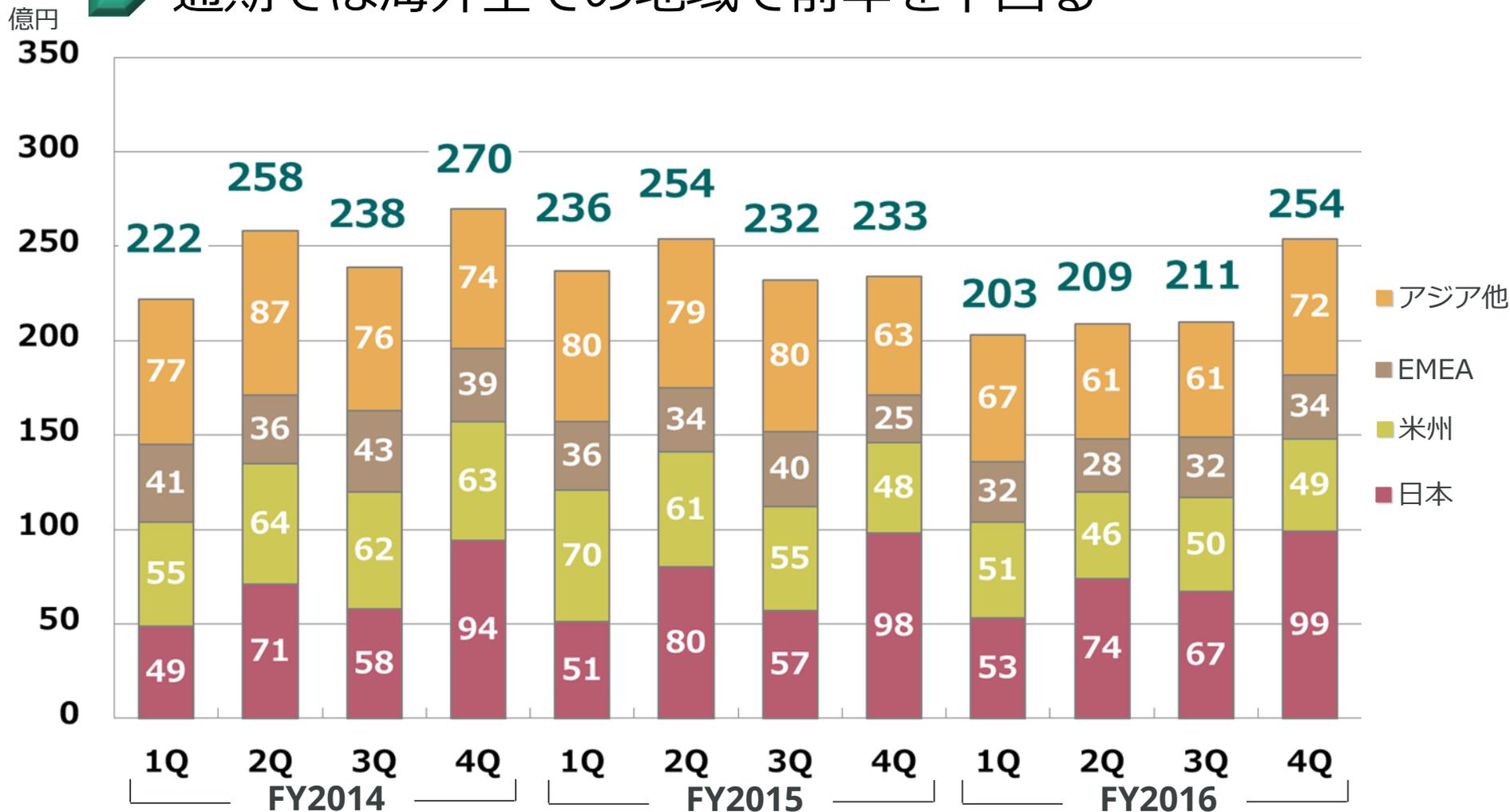
億円
300



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

II- 7. 地域別売上高推移

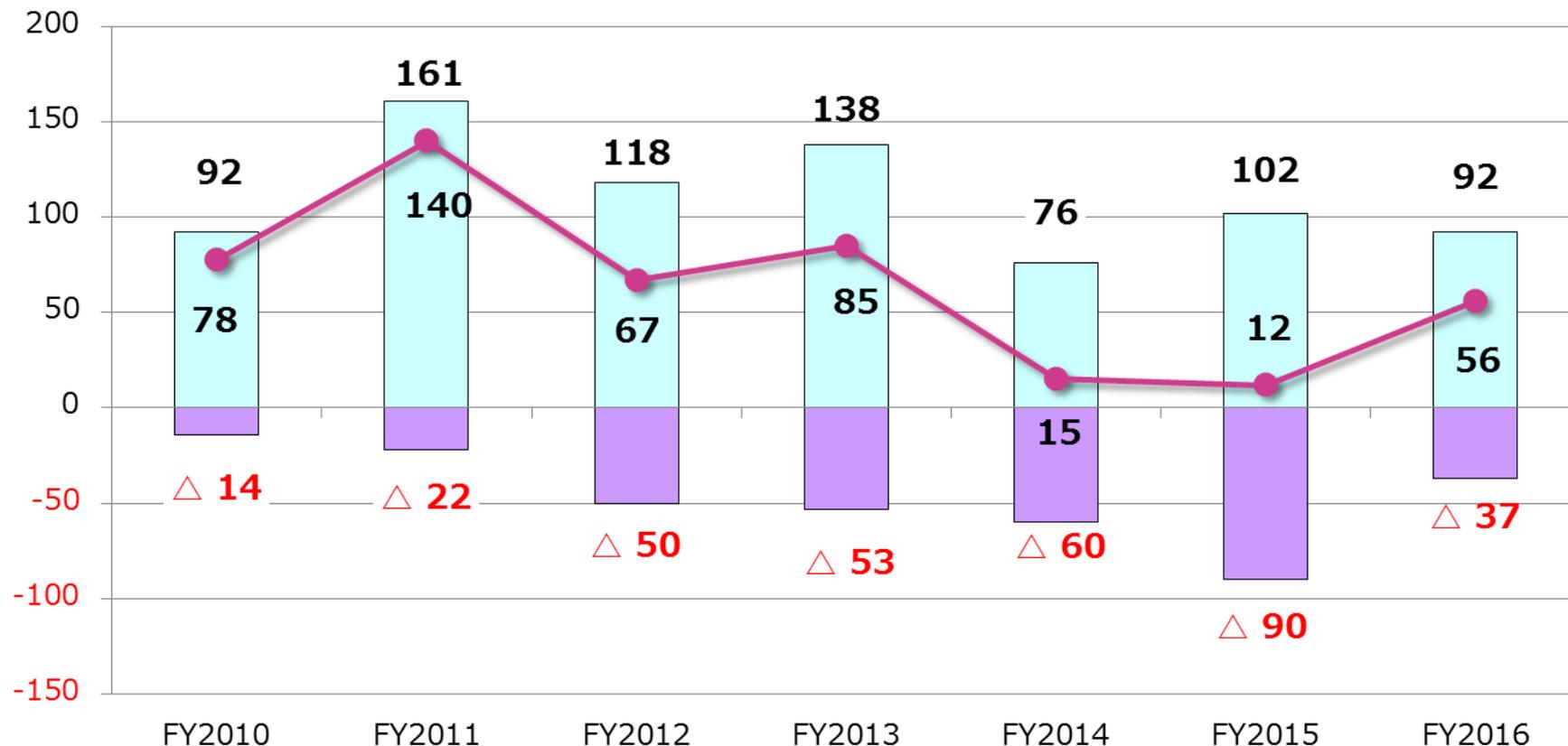
▶ 通期では海外全ての地域で前年を下回る



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅱ- 8. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



■ 営業キャッシュフロー
 ■ 投資キャッシュフロー
 ● フリーキャッシュフロー

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) FY2010は日本基準、FY2011以降は国際会計基準 (IFRS)

II- 8. キャッシュフロー (2/2)

➡ 営業CFマージン率10.5%

内訳

(単位：億円)

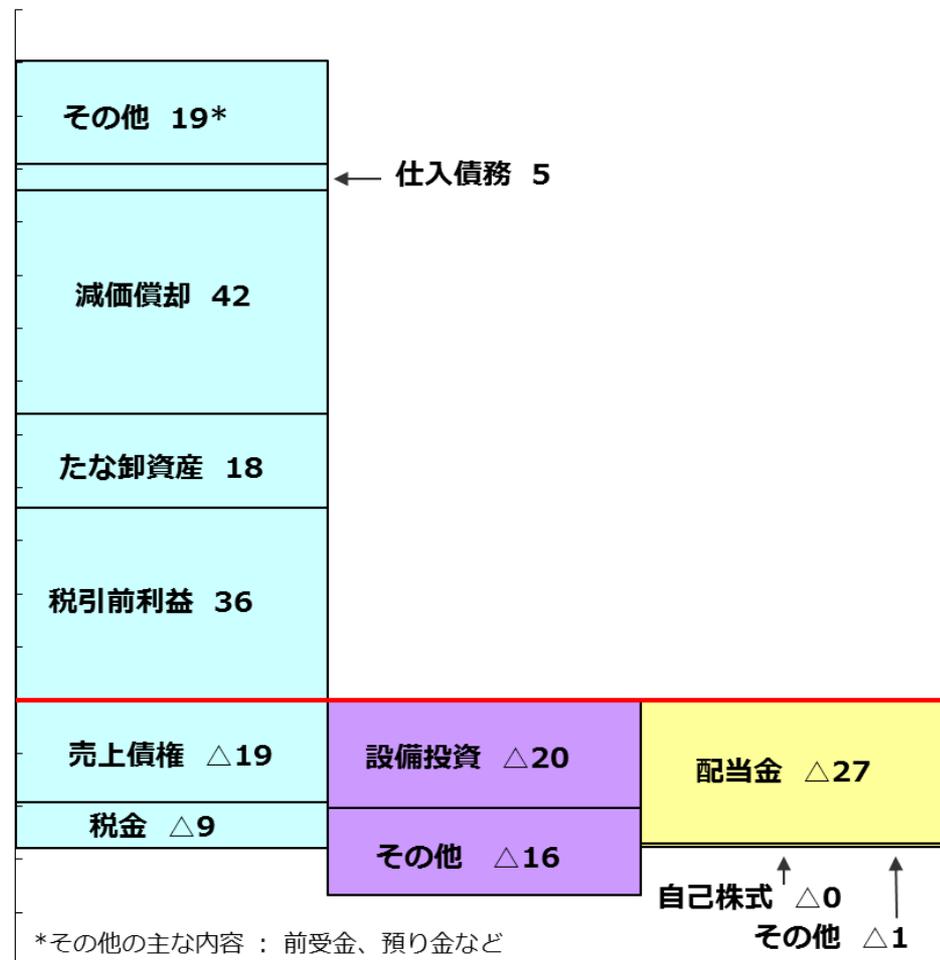
FY2016 (累計)

- ①営業CF： 92億円
- ②投資CF： △37億円
- ③財務CF： △28億円

フリーキャッシュフロー
(①+②)： 56億円

現金同等物期末残高
397億円

有利子負債高
220億円



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

営業CF 92

投資CF △37

財務CF △28

Ⅲ- 1. 2018年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 成長ドライバーの獲得に注力し、前年度並み以上を確保

（単位：億円）

		2017/3期	2018/3期		
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		876	910	34	4%
営業利益		42	44	2	4%
税引前利益		36	42	6	16%
当期利益		27	30	3	10%
T&M	売上高	593	610	17	3%
	営業利益	21	22	1	3%
PQA	売上高	196	215	19	10%
	営業利益	13	15	2	15%
その他 (含：内部消去)	売上高	87	85	△ 2	△ 2%
	営業利益	8	7	△ 1	△ 13%

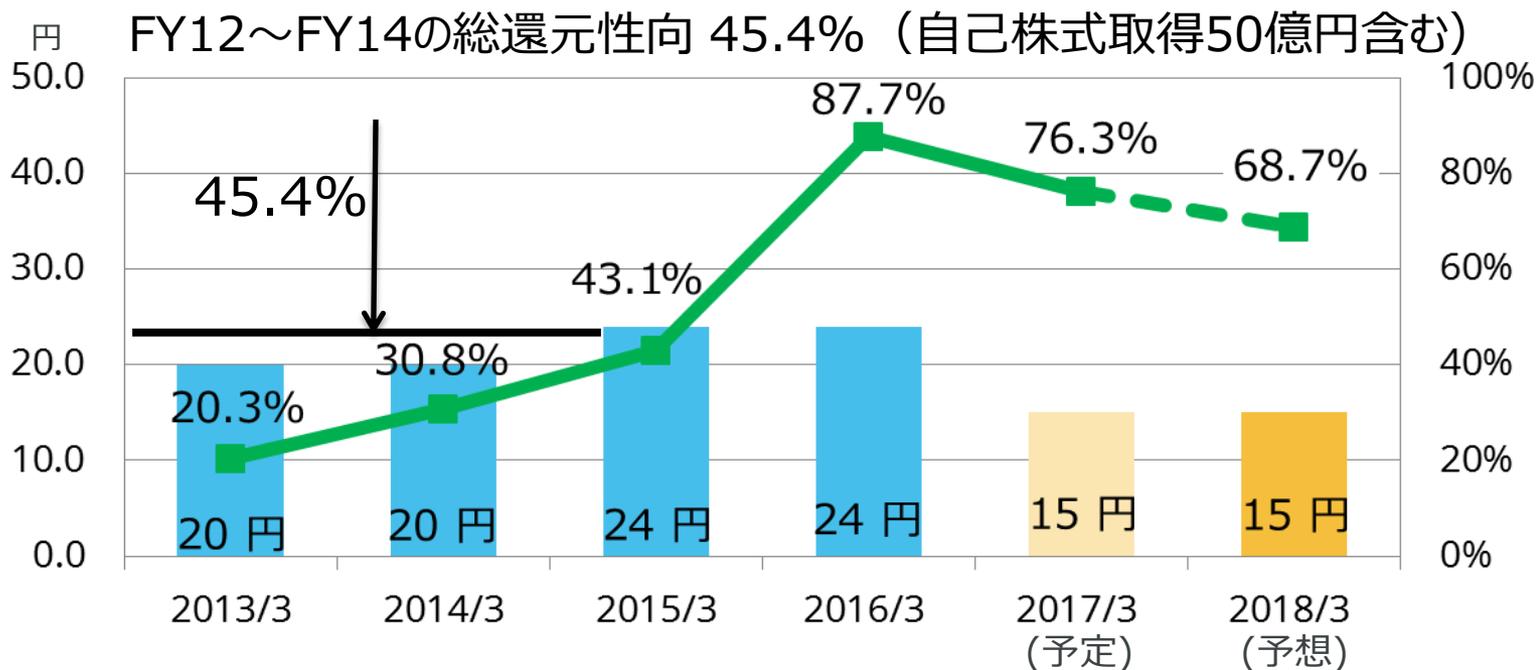
（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY16為替レート : 1米ドル108円、1ユーロ=119円
FY17想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=120円

Ⅲ- 2. 配当予想について

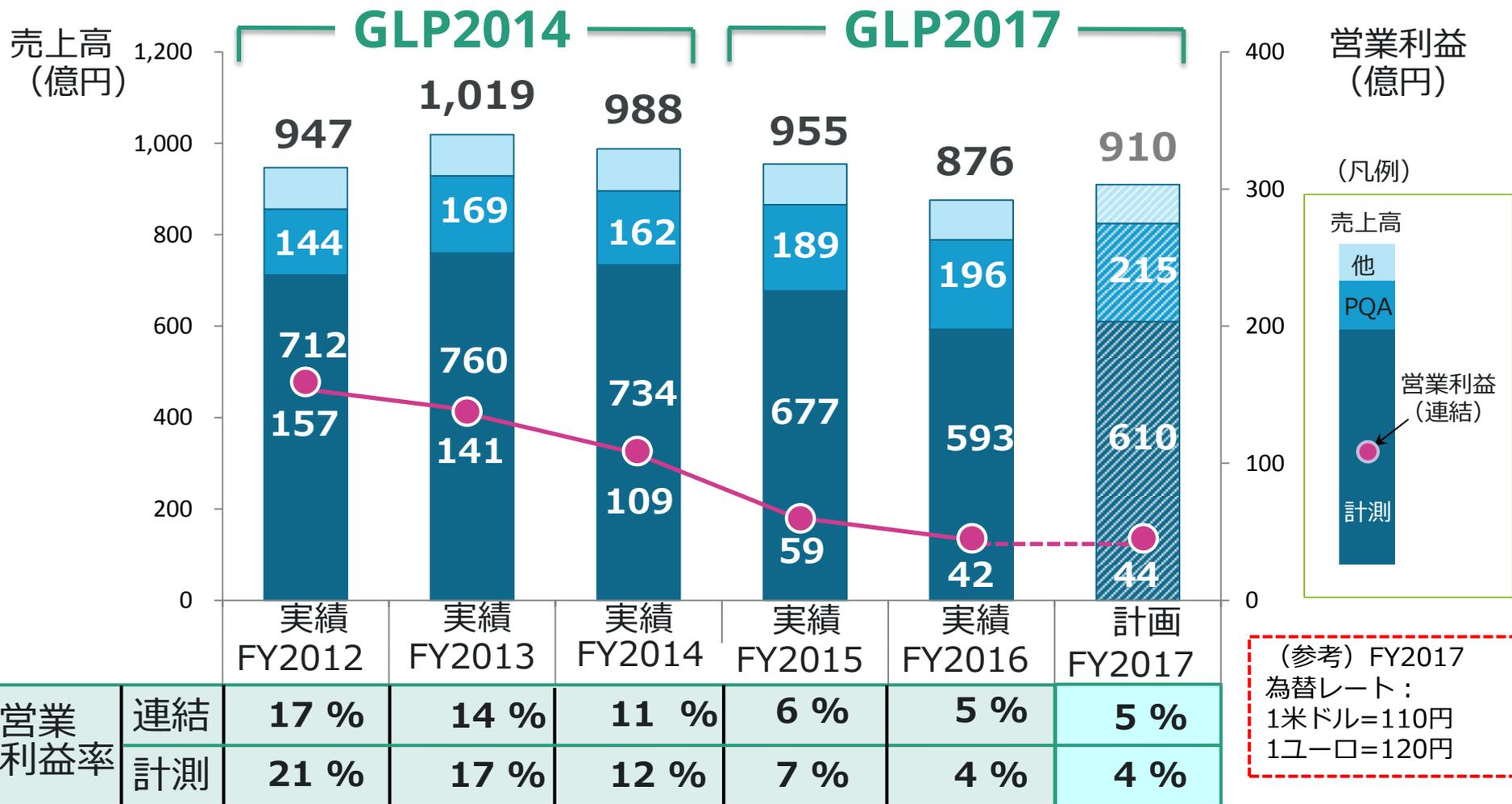
年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向
2018年3月期（予想）	15円	30億円	69%
2017年3月期（予定）	15円	27億円	76%



IV. 2018年3月期の取り組み について

IV- 1. 業績推移と3ヶ年計画GLP20xx



IV- 2. GLP2020に向けて



Global Market Leader になる

- アンリツらしい価値創造
- ワールドクラスの強靱な利益体質の実現

事業創発で新事業を生み出す

- 新しい分野でアンリツの先進性を発揮

IV- 3. 中長期の事業戦略の基本方針 <再掲>

成長ドライバーを確実にキャッチして、

“利益ある持続的成長” を実現する

	市場 年平均 成長率	成長ドライバー	ターゲット	
			売上 成長率	営業 利益率
T&M	3-5%	ブロードバンドの拡大と革新 (1) LTE-Advanced, 5G (2) IoT, Connectivity (3) Network Reshaping	≥ 7%	≥ 20%
PQA	3-5%	安全・安心と健康の増進 X線による品質保証ソリューション	≥ 7%	≥ 12%
連結	—	—	—	≥ 18%
ROE	—	—	≥ 15%	

V. 5G/IoTが切り拓く 「つながる」需要の拡大と進化

～ Mobile World Congress 2017 Report ～

アンリツ株式会社
専務執行役員
計測事業グループプレジデント

濱田 宏一

V- 1. 測定器メーカーから見たMWC2017

「Mobile World Congress 2017」 2月27日～3月2日にかけて、
スペイン・バルセロナで開催された世界最大のモバイル関連のイベント

5G標準化前倒し、2019年の商用化が視野に！

Gigabit LTE端末の登場、さらなる高速化と大容量化

セルラーV2Xが注目、車の安全安心にセルラーが役立つ日がくる

アンリツのハイライト、各社IoTモジュールと接続、WLAN新製品登場

V- 2. 5G標準化前倒し、2019年の商用化が視野に！

- NSA-NRの仕様策定を18年3月までに完了
通常仕様が決まってから1年半から2年で商用化
- 測定器の需要はCY2017末から立ち上がる



- マイクロ波、ミリ波の実用化には、技術的諸課題がある
- サブ6G（6GHz以下の周波数を使用）での5G開発の動きを注視

V- 3. LTEサービスのさらなる高速化と大容量化

1Gbps



ZTE社の
Gigabit LTE端末の展示



クアルコム社の
Unlicensed Band対応
LTE端末のライブデモ

LAA
5CA
256QAM
8X4 MIMO



4K高画質ディスプレイ
搭載端末

V- 4. セルラーV2Xが注目、車の安全安心にセルラー

V2Xの4つのユースケース

信号の事前警告



前方車両の映像の伝送



歩行者の警告



緊急ブレーキ



V2X評価ソリューション
シグナルアナライザ



V- 5. アンリツのMWC2017



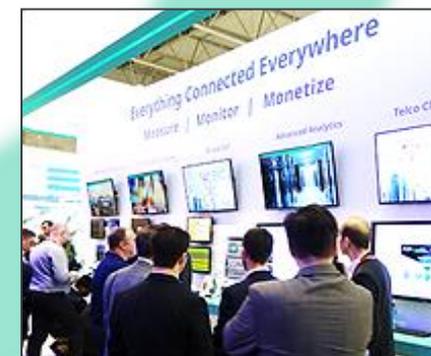
新製品の無線LAN評価
用テストに注目集まる



IoTデバイス各社と協
力した無線性能評価の
実機デモ



最先端の5Gミリ波測定
5Gネットワーク評価



業界をリードする
LTE-Advanced Pro
開発ソリューション

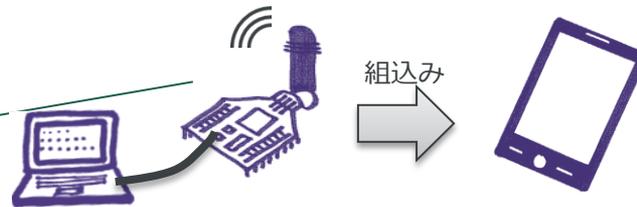
V- 6. WLAN新製品に注目集まる



ワイヤレスコネクティビティテストセット **MT8862A**

IEEE802.11ac/n/a/g/bに対応した通信プロトコルを実装、WLAN機器の性能を実動作状態で測定できるネットワークモードを搭載しています。

ネットワークモード無し



スマートフォンで使うモジュールを組み込む前にテスト

WLAN機器
(試験対象)

ネットワークモード有り



IEEE802.11ac/n/a/g/b
通信プロトコルで制御

業界初
11ac対応



様々なIoTデバイスのテストが
実動作状態で可能

WLAN機器
(試験対象)

Anritsu
envision : ensure